
シンポジウム 8

尿路結石症 ―再発なく人生 100 年を過ごすために―

座 長 井 川 掌 (久留米大学医学部 泌尿器科学講座)
増 田 朋 子 (東京警察病院 泌尿器科)

司会のことば

尿路結石症は生涯で男性では 7 人に 1 人、女性では 15 人に 1 人が罹患すると言われている。またその再発率はたかく、5 年で 45 % と言われている。診断、治療の進化は目覚ましく、20 年前とは全く違う手術になっている。一方で再発予防に関してはまだまだ課題が多い。今回は「人生 100 年時代の泌尿器科学」をテーマとした第 76 回西日本泌尿器科学会総会において、本シンポジウム 8「尿路結石症―再発なく人生 100 年を過ごすために―」が開催された。

手術周辺デバイスの進化に伴い、誰でもが行う手術ではなくなってきたかもしれない。しかし、泌尿器科医として尿路結石症の患者を診ない医師はいないだろう。自然排石した患者に対しても、適切な指導を行うことで再発の予防につながると思われる。

このシンポジウムでは、4 人のスペシャリストにご登壇いただき、術前、術中、術後、そして基礎、それぞれの視点から人生 100 年、結石を再発せずに過ごすための講演を行っていただいた。

SY8-1 再発を来さないための手術「術前評価から結石へのアクセスまで」野崎東病院 岩本 秀安先生 術前に的確な画像診断を行い、残石を残さないアプローチの方法を計画することの重要性について解説した。特に ECIRS の穿刺腎杯を決定するにあたり、どの部位から穿刺すればどこに結石が残るのか、その結石に対して経尿道的にアプローチは可能か？を図解を用いて具体的に提示した。実臨床にそった大変わかりやすい内容であった。

SY8-2 再発を来さないための手術「碎石から術中術後管理まで」原三信病院 眞崎拓朗先生 手術で、いかに尿路への障害を最小にする、治療対象の結石を完全(最大)に除去するか、について自験例を踏まえて解説した。

内視鏡、アクセスシース、ガイドワイヤー、バスケット、レーザーなど、多種のデバイスをどのように使用することで、尿路を障害することなく結石を完全除去できるかについて提示した。また感染結石にもフォーカスして再発予防について述べた。完全な手術を行うことで再発予防ができる、という視点からの解説で大変興味深い内容であった。

SY8-3 改定ガイドラインにおける尿路結石再発予防と薬物療法の位置づけ 佐賀大学医学部付属病院 柿木 寛明先生 2023 年 8 月に発行された尿路結石症ガイドライン第 3 版の 6 つのアルゴリズムと 3 つのクリニカルエクステンションについて詳細に解説した。尿路結石症の患者において、行うべき基本評価、リスクのある患者に対しては 24 時間蓄尿を推奨するなかで、その煩雑さなどの問題点についても述べた。ガイドラインをどう使いこなすのか、大変参考になる内容であった。

SY8-4 基礎研究を尿路結石の治療と再発予防にいかす 名古屋市立大学 海野 怜先生

OPN (オステオポンチン) 抗体の投与、オートファージを促進する m TOR 阻害剤、抗炎症作用を持つ M2 マクロファージ誘導薬、褐色脂肪細胞を活性化する $\beta 3$ アドレナリン受容体作動薬など、結石再発の予防効果が動物実験で確認されている基礎研究について、詳細に述べた。それぞれの研究が今後臨床応用できるかについても今後の展望、課題を含めて考察した。基礎研究をどのように尿路結石の治療と再発予防につなげていくか、大変期待が大きな内容であった。

術前、術中、術後、経過観察、そして基礎、それぞれの観点から再発を来さない結石治療へのアプローチを講演いただき、ただ漠然と目の前の結石を治療するだけでなく、人生 100 年を生きるうえで大きな視点から結石治療をとらえることができた。手技を極めることは当然

であるが、再発させない治療をどのように行うのか、そして術後の患者とどう向き合うのかについて考えさせられた本シンポジウムに参加させていただけたことに、大

会長の野口満先生、プログラム委員の方々、シンポジストの先生方、共同座長の井川掌先生に感謝を申し上げ、司会の言葉とさせていただきます。
